

三原市歴史民俗資料館

蔵出しお宝ニュース

— 第 10 号 —

三原市歴史民俗資料館では、本年度より所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

蔵出しお宝展 無事閉幕

11月3日（土）から7日（水）までの5日間、三原駅前の三原市民ギャラリー・ギャラリー1にて「蔵出しお宝展」を開催し、連日たくさんの来場者で賑わいました。資料館の資料を中心に、三原市久井歴史民俗資料館・中央図書館・個人が所有の三原ゆかりの貴重な資料を約80点展示しました。



三原ゆかりの絵図面



武具・甲冑



火事装束



佐分利流槍術範士
倉橋誠太筆「心槍」

特に三原西町絵図・三原東町絵図は当
事の町割が描かれており、寺社の様子も
詳しく紹介されていることから、見学さ
れる皆様が集中しておられました。4日
（日）は第9回三原浮城まつりが開催さ
れ、市民学芸員有志のボランティアによ
る「甲冑を着てみよう！」を会場内で行
いました。こちらも大盛況で、147人が
甲冑を試着されました。また、本展示
では小早川隆景書状も所有者のご厚意で
特別披露させていただきました。元龜3
（1572）年に小早川隆景が浦宗勝に宛て
たもので、浮城まつりにふさわしい資料
でした。5日間だけの企画展でしたが、
延べ1040人のご来場がありました。本
企画展開催にあたり、ご協力いただきま
した方々へこの紙面を借りましてお礼
申し上げます。ありがとうございました。
ぜひ皆様資料館の方へもご来館賜りま
すようお願い申し上げます。

三原ゆかりの和菓子資料を展示

先般、資料館収蔵庫に仕舞われていた三原ゆかりの和菓子に関する資料を整理しました。この資料は三原市西町の菊寿堂さんがお店を閉められる際にいただいたものです。資料の内訳は干菓子^{ひがし}の木型や饅頭^{まんじゅう}用の焼き鋳^{ごて}、鉄板や菓子箱などで、和菓子の一級資料です。特に包装紙は三原の型染作家・内田皓夫氏によるデザインで、大変貴重です。



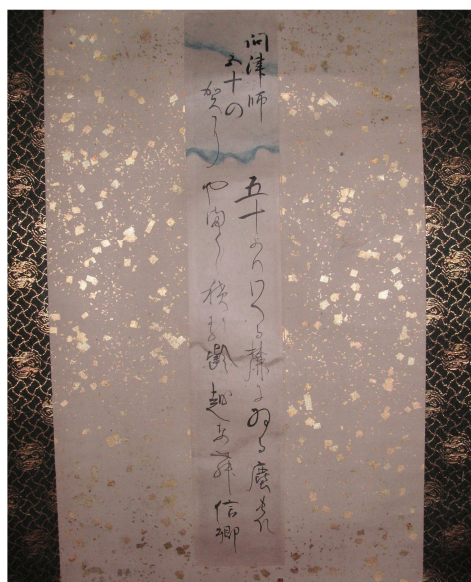
和菓子資料の展示コーナー

干菓子^{わさんぼん}は和三盆を木型に流し、押し固めて作ります。この木型も大きさや形がさまざまあり、見ているだけでもそのデザイン性に惹かれます。一見すると材木を小刀で彫れば簡単に作れそうな気がしますが、軟らかい木では干菓子を作っているとすぐに磨耗してしまうため、堅い木を用います。そして1口サイズの干菓子の場合は、1枚の板に5個くらい同じデザインの型を彫るため、専属の職人でなければ作ることができません。よって現在、干菓子の型を新調する場合は最低でも数万円はするそうです。

資料館2階の展示ケースに、新たにこの和菓子に関する資料を一部展示しました。ひろしま菓子博2013が全国的に注目されていますが、広島県三原市の和菓子文化の一端を資料館で感じていただければ幸いです。



干菓子の木型



掛物 羽倉 信郷 筆 和歌

(羽倉信郷は江戸時代中期の国学者・歌人です。)

11月1日から三原リージョンプラザにて、
大内コレクション 名筆展が開催されています。)

花入 瓢箪 花 季のもの

発行 平成24年(2012)11月16日

〒723-0015 三原市円一町2丁目3-2

(三原市立中央図書館北隣) TEL 0848-62-5595

三原市歴史民俗資料館 山崎愛一郎 編集

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。